

カンボジア技術協力プロジェクト「日本人材開発センター」

JICA 事前評価調査（第 3 回）概要報告

標記調査団は、平成 15 年 11 月 16 日にカンボジアに到着し、第 1 回、第 2 回調査で確認されたプロジェクトの基本的枠組み及び実施体制、運営体制、各研修コース内容に関して、カンボジア側関係者と実施協議調査団派遣前の最終的な合意を形成することを主たる目的として、調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。

1. 調査団構成

総括	梅崎路子	JICA アジア第 1 部インドシナ課課長
日本語教育	柄 博子	国際交流基金日本研究部日本語課課長 (国際交流基金の予算で 11 月 15 日～19 日参団)
調査計画	三浦 愛	JICA アジア第 1 部インドシナ課ジュニア専門員

2. 調査行程／訪問機関、面談者

11 月 16 日	プノンペン到着
11 月 17 日	午前：日本大使館表敬 午後：カンボジア開発評議会表敬、JICA カンボジア事務所と打合せ
11 月 18 日	終日：王立プノンペン大学と協議
11 月 19 日	午前：王立プノンペン大学と協議 午後：王立プノンペン大学青年海外協力隊員（日本語）との意見交換 経済財務省と打合せ
11 月 20 日	午前：国立経営大学表敬 午後：M/M 案作成
11 月 21 日	午前：無償資金協力基本設計調査団と打合せ 王立プノンペン大学と M/M 協議 午後：教育青年スポーツ省表敬、調査結果報告
11 月 22 日	資料整理
11 月 23 日	資料整理
11 月 24 日	午前：Steering Committee、M/M 署名 商業省と打合せ 大使館への報告 午後：JICA カンボジア事務所報告 プノンペン出発

3. 調査結果・先方との合意事項の概要（詳細はミニッツを参照）

(1) プロジェクト基本コンセプト

プロジェクトの基本コンセプトについては別添 1 の内容でカンボジア側と合意した。

(2) 実施体制

- ・ 評議委員会 (Steering Committee)、運営委員会 (Managing Committee) の構成、機能、位置付け、

メンバーについては別添 2、3 のとおり。

- ・ CJCC のセンター所長、及び各コースのマネジャー（候補を含む）は別添 4 のとおり。先方は彼らの給与補填を JICA に要望したが、困難である旨を説明、カンボジア側もこれを了承した。
- ・ 各コース実施に必要な人員配置（別添 5）については、今後関係各機関とのネットワークを通じて人選していく。総務、会計、事務等のスタッフについては、公募によって順次決定する。

### (3) 運営体制

- ・ センターの独自会計を担保するための措置に関しては、Separate Legal Entity, Annex Budget, Public Administrative Establishment 等が適応可能であることを確認。それぞれの特性をよく検証、どの方法を選択するか早急にカンボジア側で決定し、その後、経済財務省の助言も受けて所要の措置がとられるよう手続きを行う。施設が完成しプロジェクト活動が本格化する 2005 年の半ばまでに手続きが完了することを調査団は希望し、カンボジア側は善処すると約束した。
- ・ 2004 年まではセンターのための予算を特別に確保することは困難であることが判明。カンボジア側は、必要経費が明確になった時点で教育青年スポーツ省に予算要求を行うとしたが、それが困難な場合は JICA が負担できる部分については最大限配慮すると調査団は約束。2005 年以降は、その都度 RUPP が予算要求をする。<sup>1</sup>
- ・ 無償資金協力による施設建設の完了まで、プロジェクト活動に必要な場所（専門家の執務スペース、研修用の教室、等）は RUPP が確保する。
- ・ プロジェクト活動経費に関する日本とカンボジアの支出負担分担については、別添 6 のとおり。将来的には、センターの自己収入に応じてカンボジア側が徐々に負担の割合を増やすと約束。

### (4) プロジェクトの活動

#### (4)-1 人材育成コース

- ・ 日本側の案をカンボジア側に提示、大筋の合意を得た（別添 7）。但し、短期集中型のセミナーに関しては、テーマをよく吟味すべしとのコメントがあり、専門家派遣後、詳細なニーズサーベイ実施後に改めてテーマを見直すことで合意。受講料や講師謝金の金額についても、専門家派遣後更なる検討を経て確定する。
- ・ 施設が完成し活動が本格化されるまでの間は、短期集中セミナーをパイロット的に実施し、ニーズの把握及びセンターの認知度を高める。

#### (4)-2 日本語コース

- ・ 日本側の案をカンボジア側に提示、大筋の合意を得た（別添 8）。現在 JOCV の協力を得て実施している Non-Degree コースは、後述する日本語学科の開設との関係もあり、数少ないカウンターパートの負担を考慮して 2003 年度の募集を最後に当面実施を控える。
- ・ プロジェクト開始直後（2004 年度）は、教師育成コースから着手する。教室は外国語学研究所の施設を提供すると RUPP は約束した。

#### (4)-3 交流事業

- ・ センターにおける交流事業は文化活動に限定せず、両国の交流のハブとなる基本原則を踏まえ様々なバリエーションを検討する。RUPP からは、日本への留学生の同窓会活動や、日本の各種雑誌の

<sup>1</sup> 教育省担当長官からは、日本センター独自会計の措置に関し、個別に経済財務省にも問合せを行っており、問題は無いとのコメントがあった。また 2004 年までの予算に関し、プノンペン大学から予算配分の請求があった場合には、是非対応してほしいとの調査団の要望に関し、可能な限り検討するとのコメントがあった。

公開、といった提案があり、調査団はこれを歓迎した。

- ・ 交流事業を担当する日本人専門家の派遣について要望があったが、まずは試行した後にその必要性を検討する。
- ・ 交流事業の企画に関し、両国関係者で運営委員会を設置して検討するという調査団の提案に対し、カンボジア側は同意した。

#### (5) 日本語学科とセンターの日本語コースとの関係

- ・ RUPP は、CJCC の日本語コースの他に国際交流基金の支援を得て、日本語学科設立のためのプロジェクトを開始する(別添 9)。学科長は外国語学研究所長の指揮命令下に置かれ、CJCC の日本語コースマネジャーとは一線を画し、また別会計とする。但し、それぞれの活動は相互に関係し、相乗効果を図るものであることを確認。
- ・ プノンペン大学のカリキュラム改革により、第 1 学年の学生は全員が 1 年間一般教養課程を受講することになり、第 2 学年から専門科目を履修するとの計画が説明された。但し、このスケジュールも確定ではない。
- ・ CJCC の日本語コースを担当する専門家は、2004 年 7 月頃の赴任を予定し、まず教師養成コースの設立から活動を開始する。研修に必要な教室は RUPP が大学内の施設を確保すると約束した。なお、日本語学科における一般教養課程の動静によっては変更もありうる。
- ・ 一方、日本語学科設立のために、国際交流基金は 2005 年 4 月ごろに専門家を派遣、また必要に応じて複数名の青年教師を派遣する予定。この予定も一般教養課程の導入スケジュールに影響を受ける。
- ・ CJCC の日本語専門家には、日本語学科の学生選考基準作成に助言をしてもらいたいとの強い要望が RUPP からなされたので、本来の業務に支障がない範囲で協力すると約束した。
- ・ CJCC 施設完成後は、日本語学科は以下の条件で、この施設を利用することとなった。
  - ✓ 一定の賃料(額は RUPP の内部規定による)を CJCC に収める。
  - ✓ 日本語学科は施設のいかなる部分も決して占有しない。
  - ✓ 施設の運営・維持管理は日本センター所長が責任を負う。

#### (6) 無償資金協力との関係

- ・ センター施設は CJCC のプロジェクト活動計画に基づいて設計されることを確認。技術協力の事前評価調査の結果は無償資金協力の基本設計調査団に申し送られる。
- ・ 多目的ホールは、CJCC プロジェクト活動に必要な規模、仕様とすべきことを調査団が説明。RUPP は、基本的にこれに同意し、収容人数を 250~300 名程度にすることも検討すると表明。引き続きホールの使用計画について協議を行い、その結果にもとづいて設計内容を確定することとなった。
- ・ 無償の施設建設に係る準備(土地準備、必要経費負担)に関して調査団より対応を求めたところ、教育省より善処するとの回答を得た。

#### (7) 今後のスケジュール

- ・ 調査団はプロジェクト専門家の派遣時期等に関する日本側の案を提示、カンボジア側はこれを了承した(別添 10)。但し、このスケジュールは、プロジェクト開始後、詳細計画を立てる段階で変更されうる旨先方に説明した。
- ・ プロジェクト開始までのスケジュール、また無償資金協力による施設整備のスケジュールは別添

11 のとおり。但し、このスケジュールは状況によって変更する可能性もあることを確認。

- ・ 技術協力に関しては、2004 年 1 月にコンサルタントを派遣し、関係者を集めたワークショップを行い、プロジェクト目標及び概要を示すプロジェクトドキュメント、Project Design Matrix (PDM) を作成する。

#### 4. 団長所感

- (1) センターの所長、各コースのマネジャーの任命、評議委員会 (Steering Committee) と運営委員会 (Managing Committee) のメンバーの確定、等、第 2 回事前評価調査時点で約束した事項がいずれも完了していたことを見ても、カンボジア側関係者、特にプノンペン大学の本件プロジェクトに対する強い意気込みを感じることができた。主としてプノンペン大学学長を相手とした協議は、極めてスムーズに運んだ。学長の誠実な態度、問題点の正確な理解とその解決に向けた柔軟な対応ぶりに接し、プロジェクト開始後であっても若年のセンター所長やコースマネジャーに対する強力なバックアップが期待できるとの印象を持った。
- (2) 日本—カンボジア国交樹立 50 周年の機会を捉え 12 月までには R/D を署名するという当初予定は、総選挙後今もって組閣が終了しないカンボジアの政治状況の影響もあり延期せざるを得なかったが、この点については先方の了解が得られた。とはいえ、2 月に第 1 回事前評価調査を実施して以来相当の時間が経過していることもあり、先方のモチベーションを下げないためにも、これ以上の遅延を避け、2004 年 1 月の追加調査 (コンサルタント団員によるワークショップ開催、PDM や PO の作成)、3 月の R/D 署名、4 月のプロジェクト開始という修正スケジュールにそって着実に前へ進めることが肝要である。
- (3) 今次調査では、日本センターの日本語コース (JICA の支援) とプノンペン大学が新たに開設しようとする日本語学科 (国際交流基金の支援) の整理をどうつけるかが主要論点のひとつであった。事前の情報では、2004 年 10 月に日本語学科がスタートするとのことであったが、高等教育改革の一環で教養課程の導入が義務付けられたことにより、2004 年に日本語学科の学生が入学しても実際に日本語の専門教育を開始するのは 2005 年からになるとの説明が先方よりなされた。これを受けて、センターの日本語コースの開設時期を 2004 年に前倒しし、日本語学科の開設準備開始を 2005 年に後ろ倒しにするとの対案を急遽先方に示したところ、了解を得ることができた。このように柔軟な対応が可能であったのは、国際交流基金の日本語課長が調査に加わってくれていたという事情によるところが大きい。しかしながら、日本語課長帰国後に、今度は 2004 年の教養課程導入が流動的であるとの新たな情報が先方からもたらされた。不確実な情報であることもあり、当面は一旦合意した方針を堅持することで先方も了解したが、事態の展開に応じてもう一度方針を見直す必要もあろう。とりあえず、日本語学科における日本語教育は 2005 年以降に開始 (即ち、学生の採用年度を後ろ倒しにする可能性を含む) することを前提とすることが適当と思われ、調査団の見解として先方に伝えたが、後日国際交流基金ともう一度改めてスケジュールのすりあわせをする必要がある。このように不透明な先行きの中でプロジェクトの準備を進めざるを得ないので、JICA 事務所、プロジェクト開始に先駆けて派遣したプロジェクト調整員には、プノンペン大学との緊密な情報交換を期待すると共に、国際交流基金の活動に関する部分では一次情報の収集・分析はともかく、全てを JICA ベースで調整することは不可能であるので、国際交流基金の窓口として大使館にも事態の正確な把握、適時のご判断に関しご配慮をお願いしたい。

- (4) 更に、日本語コースと日本語学科との間で、指揮命令系統、事務スタッフの配置、会計の管理などをどのように整理・区別するかが懸案事項であったが、いずれも区別することで先方と合意に達した。他方、当然のことながら、両者はお互いに影響を及ぼしながら進んでいくことになるので、いかにすれば相乗効果を挙げ、効果的な運営が可能になるかについても意見を交わした。最も深刻な問題はカウンターパートとなる日本語教師の数の不足であるが、活動計画をすり合わせてお互いの進捗を阻害しないことが大切である。また、同様の趣旨から、無償資金協力で日本センターが完成した後は、日本語学科の授業もこの施設を利用して実施することとした。カンボジア国内初の高等教育における正規日本語過程が、日本センターで実施されることは極めて象徴的であり、日本語教育の「総本山」として日本センターが広く認知されることになる。勿論、無償資金協力要請時には日本語学科の計画は含まれていなかったという事情もあるので、同学科の施設利用にかかるいくつかの条件（たとえば、施設の維持管理についてはセンター所長が責任を持つ、日本語学科による教室の占有は行わない、等）をクリアすることが前提となるのは当然である。後日、日本国内における無償資金協力の手続きにおいて、日本語学科の取り扱いが問題となることのないよう、大使館におかれても本省への説明などのご配慮をお願いしたい。
- (5) もうひとつの未処理事項はセンターの独自会計確保のための法的処置であったが、残念ながら調査団来訪時までには結論が出ていなかった。改めて今回経済財務省を訪問したところ、複数のオプションがあるので、その中からどれをセンターが選択するのかさえ決めてくれば、その実現のための支援は惜しまないとの回答であった。既に同省からは各オプションの特徴、必要とされる手続きなどに関する情報は入手済みであり、また教育省本省と経済財務省の職員もメンバーに加わった作業部会も組織されているので、この部会が各オプションを研究し、どれを選択するかを議論することになっている。JICA 事務所にあつては、部会が早急に結論を出すよう積極的な関与と支援をお願いしたい。
- (6) センターの活動の 3 本柱のうち、日本語コースについてはかなり具体性を持って先方に提示することができ、先方の基本的了解も得ることができたので、プロジェクト開始後もこのラインに沿って着実に活動を進めることが可能と思われる。他方、人材育成コースについては、先方に提示したのはロング・リスト的なプランであるので、実際の活動に移る前には更なる検討が必要である。実際先方からは、短期セミナーのテーマの選択、受講料の設定、などについて疑問が呈された。また、カンボジア国内でどれほどの講師を外部から調達できるか、日本からどのような専門家をどのような体制で派遣することができるかは、今後も引き続いて検討しなければならない課題であり、その結果如何によっては計画の見直しも必要になろう。なるべく早急に長期専門家を派遣し、カンボジア国内のニーズ調査を改めて実施し、その結果にもとづいた活動を展開していくべきである。
- (7) 交流事業に関しては、活動の性格からして現時点で具体的なプランを想定することは困難であるので、今次調査においても目指すべき方向性、ポリシーについてのみ先方と合意するに留めた。計画が詰まっていないとの批判もありえようが、むしろ活動に柔軟性を持たせることにより様々な可能性が期待できるというのが調査団の見解である。但し、センターの交流事業担当のコースマネジャーとプロジェクト専門家だけに企画を任せることは賢明な策とはいえない。JICA プロジェクトの枠にとどまらず、オール・ジャパンとオール・カンボジアの交流を促進するという考

え方に即して活動を展開するためには、関係機関から幅広くメンバーを募り、実行委員会を組織することが望ましい。この案は先方にも受け入れられたので、かかる委員会を組織すること自体もプロジェクト活動に組み入れることが適当と思われる。なお、交流事業にかかる専門家派遣の要望があったが、現時点ではどのようなバックグラウンドを持った人物が適当であるかの判断も難しく、また、派遣するとしても長期であるべきか否かも不明であるといわざるを得ない。当面はチーフ・アドバイザーと調整員、そしてセンターの交流活動担当コース・マネジャーを中心に、前述した実行委員会も絡ませながら具体例を積み上げた上で、専門家派遣の必要性、適否について結論を出すこととしたい。

- (8) 今回は技術協力の事前評価のタイミングにあわせて無償資金協力の基本設計調査団もカンボジアを訪問した。センターの活動を施設面で支える無償資金協力の役割は重要であり、歩調をあわせて調査を実施したことは極めて有意義であったと自己評価している。技術協力の事前評価調査団としては、プロジェクト活動の内容を可能な限り具体化し、また、先方の実施体制についても確認をし、無償調査団に引き継ぐよう努力した。調査結果にもとづき、我々調査団は、想定される施設や機材の内容をある程度リストアップした。しかし、その内容をカンボジア側と協議し固めていくことは我々調査団の守備範囲を超えることと言えよう。そこで、当方作成のリストを基本設計調査団に託すので、これを基本設計調査団がカンボジア側と協議する際のスタートラインとしてもらえればありがたい。
- (9) 無償資金協力との関係で言えば最大の懸案事項は多目的ホールの規模と仕様であった。我々調査団も、その規模を先方要望の 400 名から 200 名程度にスケールダウンさせるという対処方針でカンボジアを訪ねた。カンボジア側は、250 から 300 名程度の規模でもよい、とのコメントがあったが、他方、可能な限り大きな規模（最低でも 400 名）を確保すべしと現地日本側関係者から強い意見具申があった。具体的な使用計画案を提示してもらったところ、センターの趣旨から言ってもその提案には妥当性があると認められた。時間的制約から調査団がこの案にもとづいてカンボジア側と協議する余裕がなかったので、後は JICA 事務所に先方との協議を委ねることとしたい。もしカンボジア側の同意が得られれば調査団としては異論のないところである。基本設計調査のスケジュールを勧案するとなるべく早く結論を出すことが望まれる。但し、多目的ホールの規模や仕様を確定するには、施設の維持・管理費がカンボジア側で負担できるレベルであるかの見極めが重要であり、また敷地との関係からどの程度のものが建設可能であるかという検討も必要であろう。無論、無償資金協力としての判断基準もあると考えられるので、事務所（プロジェクト調整員も加わる）とカンボジア側の協議結果を下敷きにして、基本設計調査団としての判断を下してもらいたい。
- (10) 既述の通り、総選挙から 4 ヶ月を経過した現在もカンボジアの組閣は完了していない。プロジェクトの実質的カウンターパートである RUPP の人事には影響はないので、さほど影響はないとも考えられるが、評議委員会の共同委員長を務める教育省長官が変更になる可能性は否定できない。プロジェクトにとっても重要なキーパーソンであるので、人事がどのように決まるか注意が必要である。同長官が変更になった場合は、本省のキーパーソンを早急に見定め、プロジェクトとの太いパイプを確保することが肝要である。

- (11) カンボジアの日本センターは、中央アジアやインドシナ地域の同様プロジェクトに比べスタート

が最も遅れた。しかし、後発プロジェクトであるからこそそのメリットが多数あるように思われる。各プロジェクトの試行錯誤から学んだ教訓を充分学習し、他のプロジェクトにも誇れる内容にするとの気概を保持して今後の準備に臨みたい。

以上

### List of Facilities and Requirements

Room	Contents	Remarks
<b>I. Lobby-Exchange</b>		
A. Lobby	Entrance Lobby, Video display, CCTV System,	
B. Library	5,000-6,000 books capacity	
1. Reading Desk	Seat for 30 people	
2. Internet Booth	3 PC booths for internet access	
3. A/V Booth	2 video viewing booths	
4. Study Carrel	3 study booths with tape recorders	
5. Control Desk	Control desk, Equipment rack	
6. Storage	Storage space for keeping books, spare table and CD	
C. Guidance Booths	2 booths with table & chairs	
<b>II. Seminar</b>		
A. Multi-Purpose Room	250-400 seats room	
	Interpretation booth	Japanese, Khmer, English
	Large-size screen	
B. Seminar Room	3 rooms with 20 seats (Japanese/HRD)	
	Seminar Room	1 room with 25 seats (Japanese/HRD)
	Seminar Room (JICA-Net)	1 room with 30 seats (HRD) Further information will be available later.
C. Computer Room	20 computer units with server & printer	1 computer for lecturer
D. Japanese Style Room	1 room with 8 pieces of tatami room	
E. Room for Exchange Program	1 room for 15-20 persons with mini-kitchen	
<b>III. Administration</b>		
A. Director Room	2 Director room	
B. Reception Room	Small reception room for 10 persons	
C. Administration Office	1 room with 10 seats for expert and staff (inc. part-time)	Administration+Exchange Program
D. Instructor Room	1 room with 10 seats for expert and staff (inc. part-time)	HRD Course
	1 room with 10 seats for expert and staff (inc. part-time)	Japanese Course
E. Meeting Room	1 meeting room with 20 seats (for all staffs)	Weekly meeting
F. Other	1 room for 5 persons	driver, security, cleaner
G. Kitchenet		
<b>IV. Others</b>		
A. Pantry	Beverage (coffee, tea etc. for function)	
B. Circulation	Corridors, Staircases	
C. Toilets	1 Toilet each floor	
D. Machinery Space	Power room, Pump room, Generator room, Air conditioning for required rooms	
E. Storage Space	Storage space for seminar equipment, and storage for office supplies	

### List of Equipment

<i>Equipment</i>	<i>Description</i>	<i>Remarks</i>
<b>1. Cultural Exchange Lobby</b>		
A. Lobby Display	Large Screen Display with satellite transmission system	
B. Audio-visual Display	Video Monitor Booths (Video-recorder, CD-recorder etc.)	
C. Computer Terminals	For Book Administration, Printers	
D. Library PC	Book Capacity	
E. Equipment	Furniture (Tables, Equipment Racks & Chairs) Copy Machine	
F. Library Control Desk	Furniture (Tables & Chairs)	
G. Guidance Booths	PC & Printer for Reference System of Books	
H. Others	CCTV System	
<b>2. Seminar Zone</b>		
A. A/V Equipment	LCD Projector	
	Screen (Wide)	
	CD Player, Video Deck	
	Audio Amplifiers, Speaker	
B. Classroom Furniture	OHP Projector, LDC Projector, Screen	
	Desk & Chairs	
	Whiteboard	
C. Computer System	PC, Server, Printer, Internet Connection	
D. Japanese Tatami-mats	8-tatami Space for Cultural Exchange Activities	
<b>3. Administration Zone</b>		
A. Office Equipment	Copy Machine	
	Fax Machine	
	Telephone & Internet connection	
	PC & Printer	
B. Office Furniture	Desks, Chairs, Bookshelves, Lockers	
C. Lesson Editing Equipment	Editing Equipment etc.	
<b>4. Others</b>		
A. Satellite Transmission Receiving System	Parabola Antenna	
	Amplifier	
	Distributor	
	Connection to Required Equipment	
B. Storage Racks	Seminar Equipment & Furniture	
	Administrative Supplies	
	School Records & Documents	
C. Extension Telephone System		
D. Radio System in the Center		
E. Pantry	Tables & Chairs, Cooking Facilities	

## 日本センターホール利用計画(案)

項	イベント	対象者(例)	人数	開催頻度	利用日数
1	ビジネスセミナー	一般	~400人	12回/年	24
2	日本語スピーチコンテスト	日本語学習者	400人	1回/年	2
3	日本語学習者と日本人との交流会	日本語学習者	200人	2回/年	2
4	伝統文化芸能				
	歌舞伎、狂言、文楽	招待者	400人	2回/年	4
5	伝統遊戯				
	あや取り、折り紙、おはじき、凧揚げetc	小学校毎	400人	2回/月	24
6	演劇				
	人形劇、影絵、	小学校毎	400人	2回/年	4
7	音楽会				
	琴、尺八、雅楽、太鼓	一般	400人	2回/年	2
8	カンボジア伝統芸能				
	アプサラダンス、影絵	在住日本人	200人	1回/年	1
9	武道クラブ				
	柔道、剣道、合気道、空手etc	クラブメンバー	50人	1回/週	54
10	映画	一般	400人	2回/年	4
11	季節イベント				
	盆踊り	一般	400人	1回/年	2
	餅つき大会	一般	400人	1回/年	2
12	展示会				
	写真展	一般	1000人	2回/年	4
	ODA/NGO展示会	一般	1000人	1回/年	2
	その他個展など	一般	数百人	5回/年	6
13	要望調査説明会		200人	1回/年	2
14	プロジェクトによるセミナー、ワークショップ等				
	薬物セミナー	大学生、一般	400人	6回/年	12
	ジェンダーセミナー	大学生、一般	400人	6回/年	12
	環境教育	学校、一般	400人	6回/年	12
	医療セミナー	学校、一般	400人	6回/年	12
	その他	対象者等	400人	12回/年	24
15	帰国研修員が実施するセミナー	特定向け	数百人	6回/年	12
16	青年招聘オリエンテーション	対象者	~100人	2回/年	2
17	帰国研修員同窓会	帰国研修員	数百	3回/年	6
18	留学生無償				
	説明会	一般	400人	2回/年	4
	試験	一般	250人	2回/年	4
19	プノ大日本語学科卒業式	対象者	150人	1回/年	1
20	プノ大イベント				
21	オリエン、会議、ワークショップ、学会etc	プノ大学生等	数百人	6回/年	12
22	日本人補習校とカンボジア小学校との交流会	対象者	100人	1回/年	2
23	日本人会総会	日本人会会員	300人	1回/年	1
24	日本人会忘年会	日本人会会員	300人	1回/年	1
25	公演				
	JICA関係者、日本人会、商工会、カンボジア側	一般	~400人	2回/年	2
26	外部への貸し出し				
	年次協議、ワークショップ、その他	対象者		24回/年	48
合計(日)					306
利用率					83%

## Cambodia Japan Cooperation Center Multipurpose Hall utilization plan (Draft)

No.	Event	Target Group (Exempl)	Persons	Frequency	Days
1	Business Seminar	General Public	~400	12/Year	24
2	Japanese language Speech Contest	Japanese Learner	400	1/Year	2
3	Exchange activities between Japanese Language Learner and Japanese people	Japanese Learner	200	2/Year	2
4	Japanese Traditional Culture Performance				
	Kabuki, Kyogen, Bunraku, etc	Invited Persons	400	2/Year	4
5	Japanese Traditional Playgame				
	Origami, Ayatori, Ohajiki, Takoage, etc	Primary School Children	400	2/Month	24
6	Theatrical Performance				
	Puppet Play, Shadow Play, etc	Primary School Children	400	2/Year	4
7	Musical Performance				
	Koto, Shakuhachi, Gagaku, Taiko, etc	General Public	400	2/Year	2
8	Cambodian Traditional Culture Performance				
	Apsara Dance, Shadow Play, etc	Japanese	200	1/Year	1
9	Martial Art Club				
	Judo, Karate, Aikido, Kendo, etc	Member	50	1/Week	54
10	Movie	General Public	400	2/Year	4
11	Seasonal Event				
	Japanese Dancing Festival	General Public	400	1/Year	2
	Mochituki, etc	General Public	400	1/Year	2
12	Exhibition				
	Photo Exhibition	General Public	1000	2/Year	4
	ODA/NGO Exhibition	General Public	1000	1/Year	2
	Other Exhibition	General Public	Hundreds	5/Year	6
13	Request Survey Explanatory Session		200	1/Year	2
14	Seminar and/or Workshop by JICA Projects				
	Counternarcotic Seminar	Students, General Public	400	6/Year	12
	Gender Awareness Seminar	Students, General Public	400	6/Year	12
	Environmental Education	Students, General Public	400	6/Year	12
	Healthcare Seminar	Students, General Public	400	6/Year	12
	Other	Persons Concerned	400	12/Year	24
	Seminar by Ex-participants of Training in Japan	Persons Concerned	Hundreds	6/Year	12
16	Orientation for Youth Invitation Program	Persons Concerned	~100	2/Year	2
17	Alumni Association of Ex-participants of Training in Japan	Alumni Association	Hundreds	3/Year	6
18	Japan's Grant Aid for Human Resources Development Scholarship				
	Explanatory Session	Persons Concerned	400	2/Year	4
	Examination		250	2/Year	4
19	Graduation Ceremony for the Japanese Language Department	Persons Concerned	150	1/Year	1
20	Events for RUPP				
21	Orientation, Conference, Workshop, etc	Students	Hundreds	6/Year	12
22	Exchange activity between Khmer Primary School and Japanese Primary School	Persons Concerned	100	1/Year	2
23	General Assembly for Japanese Association	Japanese Association	300	1/Year	1
24	Year End Party for Japanese	Japanese Association	300	1/Year	1
25	Performance				
	JICA, Japanese Association, Chamber of Commerce, etc	General Public	~400	2/Year	2
26	Lend out				
	Annual Meeting, Workshop, etc	Persons Concerned		24/Year	48
Total (Days)					306
Utilization Ratio					83%

カンボジア国開催イベント人数実績

項	イベント	総人数	実施回数	備考
1	影絵	1200	2回	
2	バンブーコンサート	1050	2回	
3	大道芸	数千	1回	
4	盆踊り大会	4000	1回	
5	飴細工	110	2回	50人と60人の施設で実施
6	公演	各100	5回	
7	映画	230	1回	入れなくなり、230人で入場制限
8	日本語スピーチコンテス	400	1回	
9	武道演舞会	500	1回	
10	きずな橋平和更新	9000	1回	
11	ODA/NGO展	2000	1回	
12	狂言	200	1回	
13	留学生無償説明会			
14	留学生無償試験			
15	プノ大日本語学科卒業式			
16	日本人会総会	200	1回	
17	日本人忘年会	300	1回	

MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN  
THE JICA THIRD PRELIMINARY  
STUDY TEAM AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED  
OF THE ROYAL GOVERNMENT OF CAMBODIA  
ON THE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE CAMBODIA-JAPAN COOPERATION CENTER

The JICA Third Preliminary Study Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency visited the Kingdom of Cambodia from November 16 to November 24, 2003 for the purpose of exchanging views of the details of the technical cooperation project for the Cambodia-Japan Cooperation Center (CJCC) in the Kingdom of Cambodia (hereinafter referred to as “the Project”).

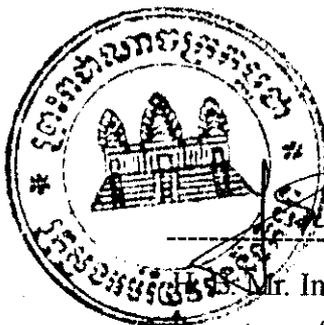
During its stay in the Kingdom of Cambodia, the Team had a series of discussions with the Cambodian concerned authorities, and the both sides agreed to recommend to the respective Government the basic framework of the Project.

Both the Team and the Cambodian side also agreed to make this Minutes of Meetings in order to confirm the mutual understandings reached through the discussions as attached hereto.

Phnom Penh, November 24, 2003

梅崎 路子

Ms. Umezaki Michiko  
Leader  
The Third Preliminary Study Team  
The Japan International Cooperation Agency  
Japan



Mr. Im Sethy  
Secretary of State  
Ministry of Education, Youth and Sport  
The Kingdom of Cambodia

H. E. Mr. Pit Chamnan  
Rector  
Royal University of Phnom Penh  
The Kingdom of Cambodia

## THE ATTACHED DOCUMENT

### 1. Basic Concept of the Project

- 1) The basic concept of the Project, confirmed by the Team and the Cambodian authorities concerned, will cover two main purposes, namely (a) to promote market economy through human resources development, (b) to further strengthen the mutual understanding and cooperation between Cambodia and Japan and enhance human networks (shown in Appendix 1).
- 2) The Team announced that a consultant would be sent to the Kingdom of Cambodia in order to organize a workshop for formulating a detailed plan of the Project. The Cambodian side understood that "Project Design Matrix" and "Plan of Operation", necessary documents to be attached to "Record of Discussions", would be made on the basis of results of the workshop.

### 2. Implementation System of the Project

- 1) The Steering Committee and the Managing Committee will be established whose functions and compositions are described in Appendix 2. Members of the two committees are listed in Appendix 3.
- 2) Director and three Course Managers (including one candidate) of CJCC are identified as shown in Appendix 4. Though Royal University of Phnom Penh (RUPP) hoped that JICA would consider supplementing their salaries so that they could fully commit themselves to the Project works, the Team responded that it would be impossible because of JICA's policy, and RUPP accepted the answer.
- 3) The both sides agreed that Cambodian personnel (ex. lecturers), as shown in Appendix 5, who would sustain the Project activities would be selected in collaboration with relating organization networks.
- 4) The both sides reached the conclusion that necessary staff such as administrator, accountant, librarian, etc. would be recruited through public announcements at due timings by referring to progresses of CJCC activities as well as construction of the Center building.

### 3. Operation and Management of the Project

- 1) The both sides recognized the importance of the legal status of CJCC to perform the functions. "Separate Legal Entity", "Annex Budget" and "Public Administrative Establishment" would be alternatives for this arrangement. The Sub-Working Group for preparation would immediately examine characteristics of each arrangement and make the recommendations. Then, they would make necessary procedures with being advised by concerned organizations such as Ministry of Economy and Finance (MoEF). The both sides agreed that the arrangement would be made before the completion of the Center building construction.
- 2) The Cambodian side explained to the Team that budget allocation for the Project activities in calendar year 2003 and 2004 would be difficult, because of budget formulation schedule, but that RUPP would do its best to obtain budget through Ministry of Education, Youth and Sport (MoEYS) once a figure of necessary expenses would be made clear. The Team promised that JICA would consider covering budget shortage at an early stage of the Project. It was confirmed that RUPP would try to secure budget in 2005 and on for the Project by applying to MoEYS every year.
- 3) RUPP promised that it would provide necessary facilities such as working space for Japanese experts and classrooms until the new Center building to be constructed under Japanese Grant Aid would be

available.

- 4) Plan of expense sharing between Cambodian and Japanese sides for the Project operation is shown in Appendix 6. The Cambodian side expressed its will that Cambodian expense sharing would be extended in responding to increase in CJCC revenue.

#### **4. Contents of the Project**

##### **4.1 Human Resources Development Course**

- 1) The Team proposed programs of Human Resources Development (HRD) Course as shown in Appendix 7, and the Cambodian side basically agreed upon the proposal. However, a comment was raised by the Cambodian side that subjects for "Seminar Type or Intensive Short Term Courses" should be carefully reexamined. The both sides agreed that the proposed programs would be elaborated on the basis of needs survey to be conducted after the Project commencement.
- 2) The both side recognized that further consideration would be necessary before determining tuition fees as well as remuneration for local lecturers.
- 3) The Cambodian side welcomed the Team's idea that CJCC would provide some special seminar even before an open of the Center building so that CJCC could obtain good reputations.

##### **4.2 Japanese Language Course**

- 1) The Team proposed programs of Japanese Language Course as shown in Appendix 8, and the Cambodian side basically agreed upon the proposal. The both sides agreed that RUPP would stop recruiting students for non-degree Japanese Course, currently to be conducted with support by Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCVs), in 2004 and on in order to reduce work load of RUPP lecturers of Japanese language. This arrangement is understood essential for RUPP's Department of Japanese which will be launched in 2004.
- 2) The both sides agreed that CJCC's Japanese Language Course should start with "Teacher Training Course". RUPP promised to secure a classroom in Institute of Foreign Languages (IFL) for the course until the CJCC building would be available.

##### **4.3 Exchange Program**

- 1) The both sides shared the idea that CJCC's exchange program would not be limited to cultural exchange, instead various types of activities should be maneuvered by taking account of CJCC's policy. The Team welcomed RUPP's proposals of exchange program, namely organizing alumni association of ex-students who studies in Japan, provision of various kinds of Japanese periodicals and magazines at the library of CJCC, and so forth.
- 2) The Cambodian side requested assignment of a Japanese expert for exchange program, and the Team responded that the request would be seriously considered.
- 3) The Team recommended organizing a working group in charge of proposing menus of exchange program because opinions of various people could enrich exchange program, and the Cambodian side accepted the recommendation. Members of the working group should be selected from a wide range of organization concerned with CJCC's activities.

#### **5. Relations between Japanese Language Course in CJCC and Department of Japanese in RUPP**

- 1) RUPP will newly establish Department of Japanese under IFL with supports of the Japan Foundation. A relation between the Department of Japanese and Japanese Language Course in CJCC is shown in Appendix 9.
- 2) Head of the Department, under supervision and instruction of Director of IFL, will be appointed in parallel with Course Manager of the CJCC's Japanese Language Course, and the Department's expenses would not be paid from the CJCC's budget account. However, it was confirmed between the Team and the Cambodian side that activities of the Department would have many influences on those of the CJCC's Japanese Language Course, so both activities should be implemented with a full of interactions to each other.
- 3) RUPP explained that in its current plan the first intake of the Department would be in academic year 2004, but actual Japanese education in the Department would start in 2005 because the students would spend one year for foundation course. However, RUPP also explained that the current plan would be subject to change because there remained some uncertainty about introduction of foundation course. The Team understood the RUPP's explanation.
- 4) The Team showed an idea that a long-term expert would be sent to the Kingdom of Cambodia perhaps in July, 2004, and the expert would start with conducting "Teacher Training Course" as stated in 4.2 2) above. The Cambodian side accepted this idea. However, the schedule will be finally confirmed after RUPP decides how to deal with foundation course of the Department of Japanese.
- 5) On the other hand, a Japanese specialist will be sent to the Kingdom of Cambodia by the Japan Foundation perhaps in April, 2005 for supporting the Department of Japanese. Moreover, some young Japanese teachers will be probably sent for delivering lectures of Japanese. This schedule will be also influenced by the way how foundation course will be introduced to RUPP.
- 6) RUPP asked for some technical advice by a JICA expert on Japanese language for preparing criteria of student selection of the Department of Japanese, and the Team answered that it would be possible if it would not interfere his/her activities under the Project.
- 7) The both sides agreed that the Department of Japanese would utilize the CJCC facilities to be provided by the Japanese grant aid under following conditions;
  - ✓ The Department will pay some rent (RUPP will decide the amount) to the CJCC account,
  - ✓ The Department will never occupy any part of the Center facilities, and
  - ✓ The CJCC Director will take full responsibilities of operation and maintenance of the facilities.

## 6. Grant Aid for the Facilities

- 1) The both sides fully understood that CJCC's facilities would be prepared by the Japan's grant aid and Basic Design would be made based upon activities of the Project. So the both sides agreed to convey to the Basic Design Team the result of the third preliminary study on the technical cooperation for the Project.
- 2) The Team explained that a multi-purpose hall to be prepared in the Center building should have appropriate capacity, size and specification in responding to the Project activities. The Cambodian side accepted this comment and asserted that they thought approximately 250-300 would be a reasonable capacity. The Team recommended to the Cambodian side that the design of the hall

should be finally confirmed with the Basic Design Study Team after exchanging views on how to utilize the facility with concerned parties such as JICA Cambodia Office.

- 3) The Team reminded the Cambodian side that the expenses necessary for preparation works for the grant aid should be secured by the Cambodian side. The Cambodian side understood this condition and wanted to know how much would be really needed for such works. The Team replied that the information would be given by the Basic Design Study Team.

## 7. Schedule

- 1) A schedule of Japanese expert assignment was tentatively proposed by the Team as shown in Appendix 10, and the Cambodian side did not have any particular objections to it.
- 2) A schedule ahead, regarding both technical cooperation and grant aid, is shown in Appendix 11. The Cambodian side understood that the schedule would be subject to change due to circumstances.

## **Basic Concept of the Technical Cooperation Project for “the Cambodia-Japan Cooperation Center”**

### **◆ Purposes of the Project**

1. To promote market economy through human resources development
2. To further strengthen the mutual understanding and cooperation between Cambodia and Japan and enhance human networks

### **◆ Beneficiaries**

The Project will benefit Royal University of Phnom Penh as well as other related organizations. One of the characteristics of the Project is its openness. The Project activities will involve businessmen, civil servants, students and Cambodian citizens who are interested in Japan.

### **◆ Three Pillars of the Project Activities**

In order to achieve the above-mentioned Project purposes, three pillars are set forth for the Project activities. They are:

1. Human Resources Development Course for Market Economy
2. Japanese Language Course
3. Exchange Program

### **◆ Basic Concept of Each Activities**

1. Human Resources Development Course

Human Resources Development Course in CJCC will provide practical trainings in order to generate human resources to promote market economy.

2. Japanese Language Course

The Japanese Language Course in CJCC aims at strengthening the

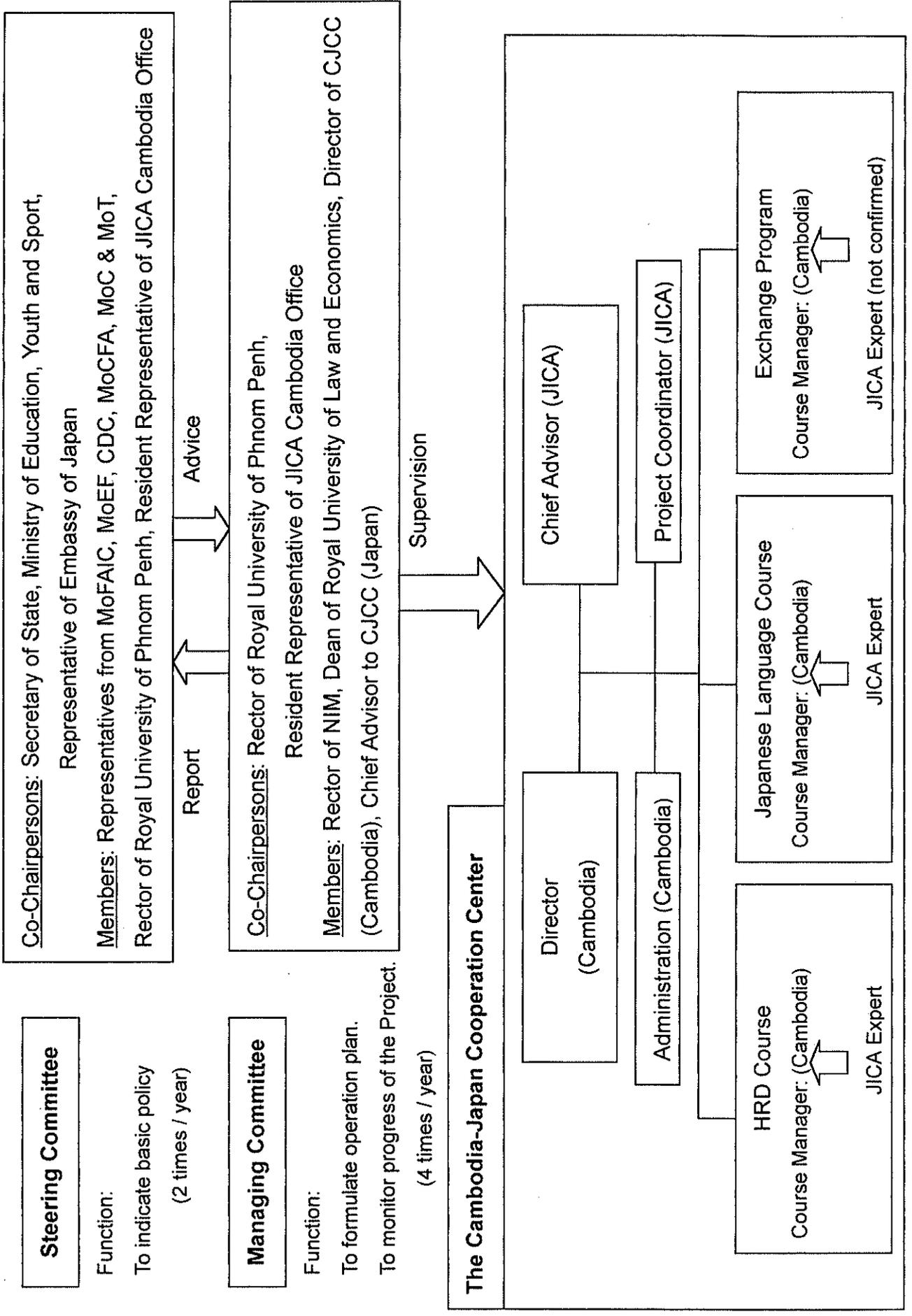
ability of Japanese language learners and teachers in Cambodia. CJCC and Department of Japanese in RUPP, which the Japan Foundation is scheduled to support, will be a stronghold of Japanese language education in Cambodia.

### 3. Exchange Program

CJCC will play an important role as information center about Japan. CJCC will also provide information on Cambodia to Japanese people. Moreover, CJCC functions as a hub between Japanese and Cambodian concerned organizations (universities, companies and NGOs etc..)



The Organization Chart of Cambodia-Japan Cooperation Center (Draft)



*Handwritten signature*

*Handwritten signature*

## List of Members

Steering Committee

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 1. H.E. Mr. Im Sethy        | Secretary of State, Ministry of Education, Youth and Sport  |
| 2. Representative (unknown) | Embassy of Japan in Cambodia  |
| 3. H.E. Mr. Pit Chamnan     | Rector of Royal University of Phnom Penh  |
| 4. Mr. Juro Chikaraishi     | Resident Representative, JICA Cambodia Office   |
| 5. Mr. Prom Daravuth        | Deputy Director, Department of Culture Techniques,<br>Ministry of Culture and Fine Arts                                 |
| 6. Dr. Hean Sahib           | Director, Economics and Finance Institute   |
| 7. Ms. Heng Sokun           | Director, Bilateral Aid Coordination Department, Japan-Asia<br>Pacific-America, Council for the Development of Cambodia |
| 8. Mr. Seun Sotha           | Deputy Director, Export Promotion Department, Ministry of<br>Commerce   |
| 9. Mr. Kao Samreth          | Deputy Director, Asia (II) Department, Ministry of Foreign<br>Affairs and International Cooperation                     |
| 10. Mr. Kim Bunnara         | Deputy Director, Education and Training Department,<br>Ministry of Tourism  |

Managing Committee

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1. H.E. Mr. Pit Chamnan | Rector of Royal University of Phnom Penh         |
| 2. Mr. Juro Chikaraishi | Resident Representative, JICA Cambodia Office    |
| 3. H.E. Mr. Iv Thong    | Rector, National Institute of Management         |
| 4. Mr. Yuok Ngoy        | Dean, Royal University of Law and Economics      |
| 5. Dr. Oum Ravy         | Director, Cambodia-Japan Cooperation Center      |
| 6. (Unknown)            | Chief Advisor, Cambodia-Japan Cooperation Center |

YF

Ume se

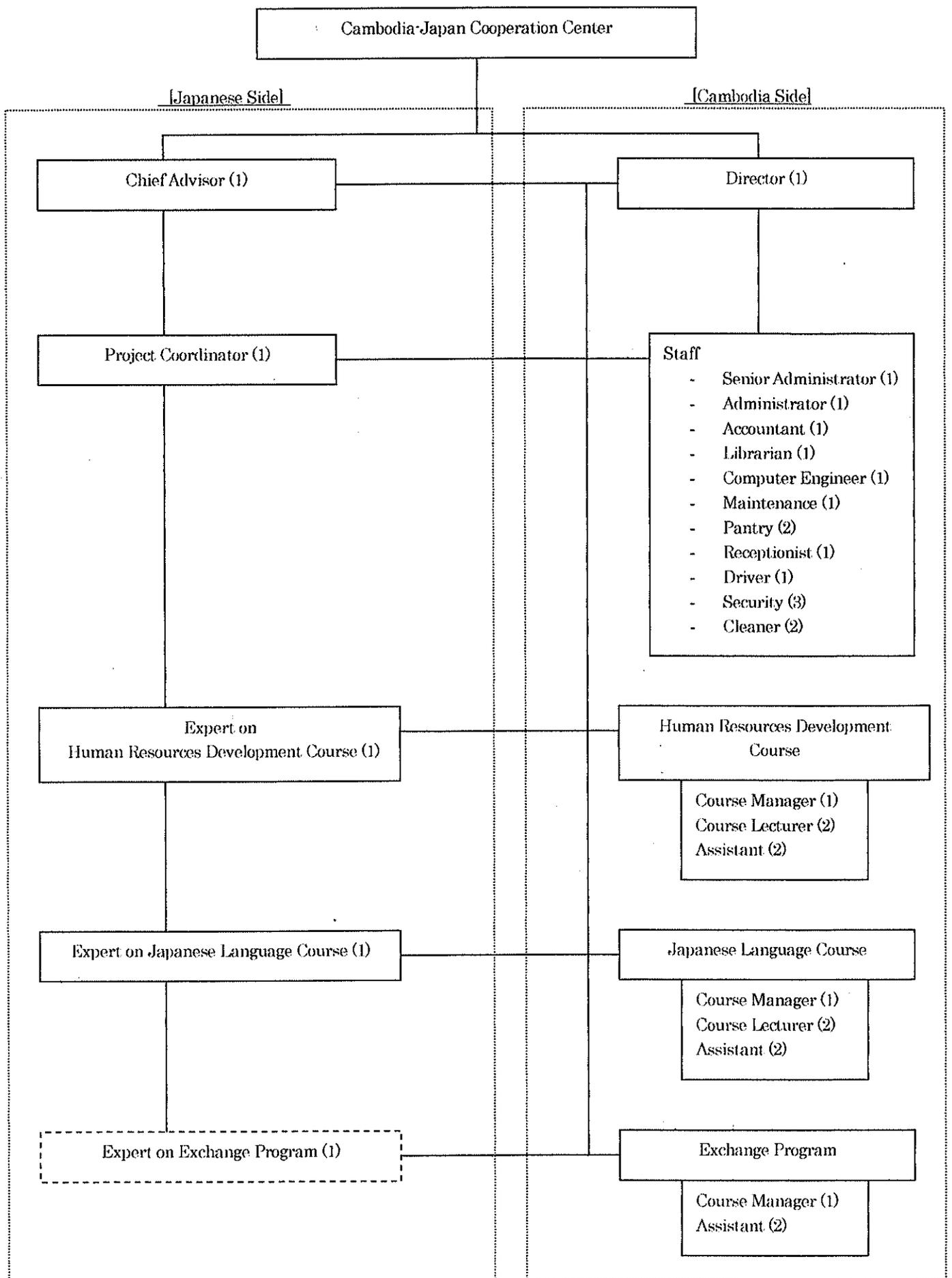
**LIST OF MAIN CAMBODIAN COUNTERPART**

- Rector                    H.E. PIT CHAMNAN  
                                  Royal University of Phnom Penh(RUPP)
  
- Director, CJCC            Dr. OUM RAVY(PhD. in Area Studies)  
                                  Cambodia-Japan Cooperation Center (CJCC)
  
- Course Manager
  - 1) Human Resource Development Course  
                                  Mr. ING LENG (Candidate)  
                                  (Master of Business Administration)
  
  - 2) Japanese Language Course  
                                  Mr. SEANG NIMORL  
                                  Teaching Staff, Japanese Language, RUPP-IFL
  
  - 3) Exchange Program  
                                  Ms. PAUV AMPOR  
                                  Teaching Staff, English, RUPP-IFL  
                                  (Master of Pedagogy)

js

Hand to

**ORGANIZATIONAL CHART IN CAMBODIA-JAPAN COOPERATION CENTER**



YS

Hand AC

**Tentative plan of expense sharing for the operation of  
The Cambodia-Japan Cooperation Center (Draft)**

No	Item	Cambodia side (Government Fund / Income of the Center)	Japanese side
<b>Item related to the technical cooperation Activities</b>			
1	<b>Payroll for regular staff</b>		
1-1	Staff assigned from within the universities	○	
1-2	Staff recruited by the Center from outside the universities		○
1-3	Travel allowance		○
2	<b>Cost of "HRD for market economy", "Japanese language course" and "exchange program"</b>		
2-1	Fee for Cambodian lecturers	●	
2-2	Fee for Japanese lecturers		○
2-3	Translation of materials		○
2-4	Print, binding of textbook		○
2-5	Advertisement		○
2-6	Rent of space (outside the Center)/ equipment	○	
2-7	Fee for temporary staff		○
3	<b>Communication</b>		
3-1	Telephone, fax and postage (local)	●	
3-2	Telephone, fax and postage (international)		○
3-3	Internet connection	●	
4	Library (books, videos and magazines)		○
5	Stationary	●	
6	Furniture (partly provided by Japanese side)	●	
7	Remuneration for committee/ceremony participants	●	
<b>Item related to maintenance and operation for the facilities requested by the grant aid cooperation to Japanese Government</b>			
8	Public utility charge (Electricity and water supply)	○	
9	Facility maintenance	○	
10	Equipment maintenance (periodical maintenance, spare parts and upgrade/replacement)	○	

Those items which are marked ● will be at the expense of Japanese Side at the initial stage.

JS

une

## Human Resource Development Course (Draft)

## Appendix 7

Course Titles	Sub-course Titles	Number of classes to be conducted and class hours	Main Target Group	Size of one class	Source for lecturers
I. Mini Business & Management Course	1-1. Fundamental business & management course for young people	5 subjects in Three (3) months course (1 subject: 1.5hours× 2times/week ×12weeks)	1-1. Those who are bright but can't study in existing universities due to financial reasons. (18-25years old)  1-2. Those who are looking for quality classes with international standard. (20-30years old)	20-30 persons	Local lecturers: From other high education institutes such as NIM, Center of Banking studies, MoC, etc. International lecturers: Japanese and other experts living in Cambodia, JICA experts, high education institutes in Japan, etc.
	1-2. Advanced and /or specific topic course for experienced private sector people.				
II. Seminar Type or Intensive Short Term Courses on Specific Subjects	2-1. Seminar focused on International experience	Half (0.5)-One (1)day	* Managers and supervisors in private companies * Civil servants * Lecturers of existing educational and institutes * General public	*20-30 persons *Up to 200-400 persons	Local lecturers: From other high education institutes such as NIM, Center of Banking studies, MoC, etc. International lecturers: Japanese and other experts living in Cambodia, JICA experts, high education institutes in Japan, etc.
	2-2. Seminar focused on local experience				
	2-3. Intensive Short Term Courses on Specific Subjects	Three (3) days			
2-3. Seminar Type or Intensive Short Term Courses on Specific Subjects: list of suggested core topic.					
I. History of industry development A	* Development history of agro-processing industry in Japan		* Ministry of Agriculture * Ministry of Commerce * Chinese origin Cambodian business people * DVET * Member of Silk and Garment association	* 20-30 persons * Up to 200-400 persons	* JICA experts * Hotel Association in Singapore * JFIC * MoEF, NBC-CB
	* Development history of fishery industry in Japan				
	* Development history of furniture manufacturing and present situation in Japan				

38

Handwritten signature

Course Titles	Number of classes to be conducted and class hours		Main Target Group	Size of one class	Source for lecturers
	Sub-course Titles	hours			
1. History of industry development A	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Development of civil engineering in modern Japan</li> <li>* Development of tourism industry in ASEAN</li> <li>* Development of handicraft industry in ASEAN</li> <li>* Development of banking industry in Japan</li> <li>* Development of rural finance sector in ASEAN countries</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* Ministry of public work and transport</li> <li>* DVET staff</li> <li>* Travel agency, Hotel</li> <li>* Ministry of Tourism</li> <li>* MoEF</li> <li>* National Bank of Cambodia</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 20-30 persons</li> <li>* Up to 200-400 persons</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ADB Institute</li> <li>* IMF-Singapore regional training institute</li> <li>* World Bank Institute</li> </ul>
2. History of industry development B	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Development of automobile industry in Japan</li> <li>* Development of physical distribution in Japan</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* Chinese origin Cambodian business people</li> <li>* MIMME, Moc</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* Japanese managers of automobile and related companies stationed in ASEAN</li> </ul>
3. Corporate governance	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History and practice of corporate governance in Japan</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>* CPA association in Japan</li> </ul>
4. Rules of Law and Regulation (Good governance)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History of development of rules of law and regulation in Japan</li> <li>* Experience of land reformation in Japan</li> <li>* Insolvency issues in Japan</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* All government officers</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* JICA experts</li> <li>* Moc</li> </ul>
5. Business and management practice	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Drafting a marketing plan</li> <li>* Finance for non-finance managers and supervisors</li> <li>* Practical skill for productive managers</li> <li>* Critical skills for supervisors</li> <li>* Time management</li> <li>* Trade business (How to import and export)</li> <li>* Practice and behavior of board of investments in other ASEAN countries</li> <li>* Important concept in managing people</li> <li>* Business practice in other countries: Comparison of Japan and Cambodia</li> <li>* Quality control</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* Entrepreneurs</li> <li>* CIB officials</li> <li>* Junior senior management and supervisors</li> <li>* Department of personnel a training of each ministries</li> <li>* MoC officials</li> <li>* Other related ministry officers</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* AOTS, JODC</li> <li>* JICA experts</li> <li>* Japanese trading company representative</li> <li>* Cambodians doing business in Japan</li> <li>* UNCTAD consultant</li> <li>* Japanese government officers involved in trade treaty negotiation</li> </ul>

80

Uml

Course Titles	Sub-course Titles	Number of classes to be conducted and class hours	Main Target Group	Size of one class	Source for lecturers
5. Business and management practice	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Human resource development (How Japanese train their people)</li> <li>* What is E-Business?</li> <li>* Why it took 50years for WTO to be born?</li> <li>* How to conclude bilateral trade treaty</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Success story of Cambodians in other countries (Lecturer by CEOs in ASEAN)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Entrepreneurs</li> <li>* Students in business administration courses in other institutes</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 20-30 persons</li> <li>* Up to 200-400 persons</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* International consultants (WTO issues, Moc officers etc.)</li> <li>* CEOs in Cambodia</li> <li>* ASEAN based Japanese CEOs</li> </ul>
6. CEO Talk					<ul style="list-style-type: none"> <li>* JICA experts</li> <li>* Japanese and Non-Japanese managers of construction and related companies stationed in ASEAN</li> </ul>
7. Industrial relations	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History and development of labor-management relations in Japan</li> <li>* Safety and Health at working place</li> <li>* History of public welfare in Japan</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>* CPA association in Japan</li> </ul>
8. Corporate governance	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History and practice of corporate governance in Japan</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>* JICA experts</li> </ul>
9. Rules of Law and Regulation (Good governance)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History of development of rules of law and regulation in Japan</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* All government officers</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* JICA experts</li> </ul>
10. Development of a Nation	<ul style="list-style-type: none"> <li>* History of economic infrastructure development in Japan</li> <li>* History of environment protection</li> <li>* Resettlement issues</li> <li>* History of development of educational system in Japan and ASEAN</li> <li>* Development of technologies in Japan after the World War II</li> <li>* Normal Japanese life style</li> <li>* How Japan recovered after WWII</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* MIME</li> <li>* Ministry of Tourism</li> <li>* Students in law departments</li> <li>* MOEYS staff</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* JICA experts</li> <li>* JICA project STEPSAM experts</li> <li>NHK of Japan</li> </ul>

80

Use 1

Course Titles	Sub-course Titles	Number of classes to be conducted and class hours	Main Target Group	Size of one class	Source for lecturers
<p>III. Entrepreneur Incubating Course</p>	<p>3-1. Basic course (How to start business)</p> <p>3-2. Advanced course (Actual solution solving)</p>	<p>Six (6) months course</p>	<p>3-1. Those who wish to start up their own business</p> <p>3-2. Those who are already running their own business</p>	<p>3-1. 10-20 persons</p> <p>3-2. Maximum 10 persons</p>	<p>Local lecturers: From other high education institutes such as NIM, Center of Banking studies, MoC. etc. International lecturers: Japanese and other experts living in Cambodia, JICA experts, high education institutes in Japan, etc.</p>
<p>IV. A Credit Course of General Education Curriculum of RUPP</p>		<p>Class hours depend on RUPP regulation</p>	<p>Student at RUPP (In the future, students of other universities)</p>	<p>30-50 persons</p>	<p>Local lecturers: From other high education institutes such as NIM, Center of Banking studies, MoC. etc. International lecturers: Japanese and other experts living in Cambodia, JICA experts, high education institutes in Japan, etc.</p>

78

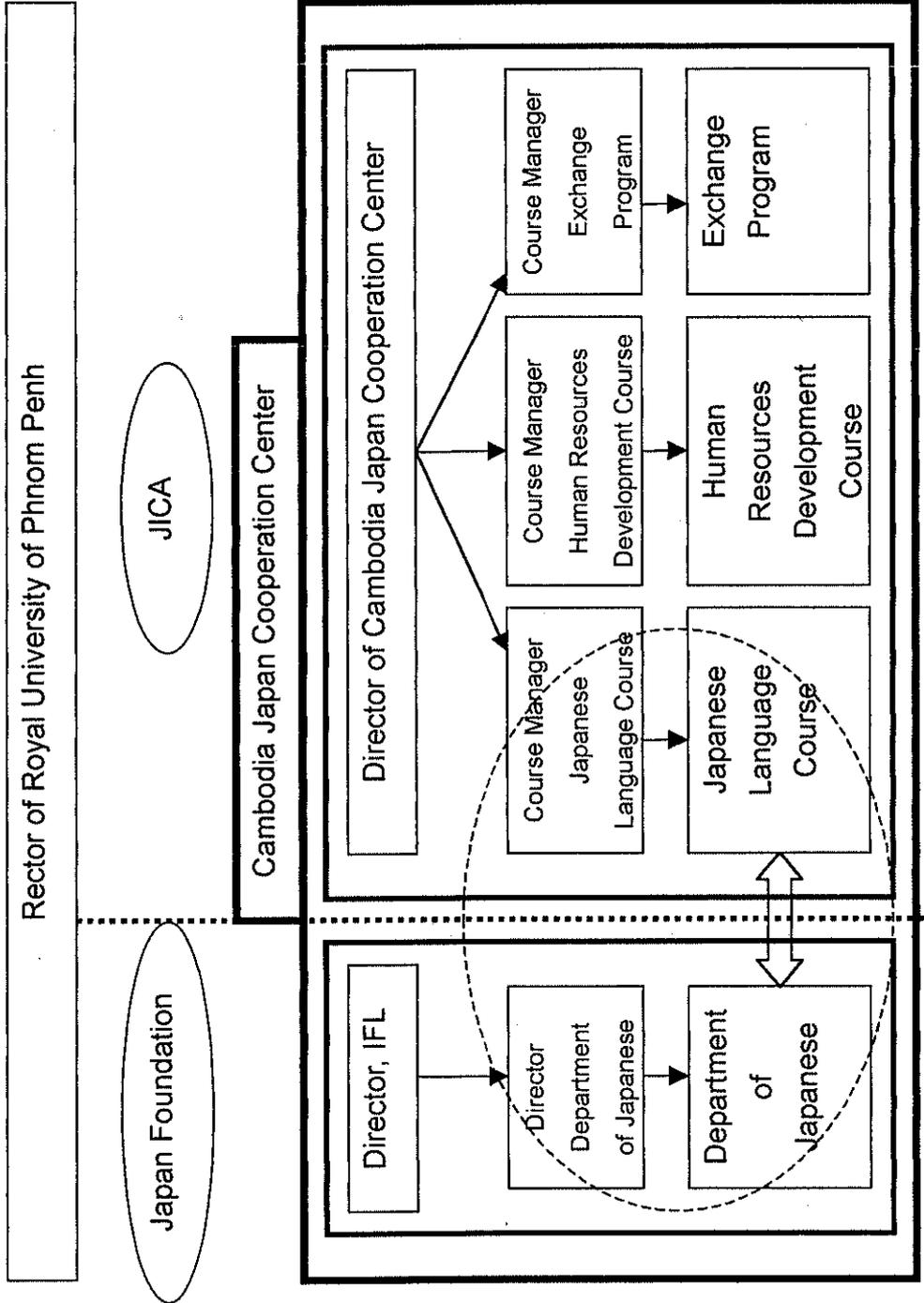
Handwritten signature

## Japanese Language Course Plan (Draft)

Course Titles	Course Category	Main Target Group	Number of classes to be conducted and class hours	Size of one class	Materials	Source for lecturers
1) Beginner Level	Between the Beginner Level and the Intermediate Level	The person who should finished the Beginner Level of Japanese language even if any Japanese language training center or institute. However they don't have ability of enter the intermediate level yet.	Six (6) months course (1.5hours × 3times/week)	25 persons	Ready-made	Cambodian
2) Intermediate Level I	The early stage of the Intermediate Level	The person who should finished the Beginner Level of Japanese language even if any Japanese language training center or institute. (Japanese Language Ability Test: 3rd Grade)	One (1) year course (1.5hours × 3times/week)	20 persons	Ready-made	Japanese
3) Intermediate Level II	The final stage of the Intermediate Level	The person who will selected the entrance examination around the graduate of the Intermediate Level I. (Level of entrance examination will be 3 or 2 Grade of Japanese language Ability Test.)	One (1) year course (1.5hours × 3times/week)	20 persons	Ready-made	Japanese
4) Teacher Training Course	It will be able to teach the Beginner Level course	Existing Japanese language teacher who teach at the any Japanese language training center or institute.	One (1) year course (1.5hours × 3times/week)	15 persons	Order-made	Japanese
<b>5) Special Subject Course</b>						
5)-1. Advanced Level I, II	Advanced Level	The person who graduated the Intermediate Level II.	-	10 persons	Ready-made	Japanese

Course Titles	Course Category	Main Target Group	Number of classes to be conducted and class hours	Size of one class	Materials	Source for lecturers
5)-2. Guidance Course for the Japanese Language Ability Test						
5)-3. Tourist Guide Course						
5)-4. Business Japanese Language Course						
5)-5. Translator & Interpreter Course						
5)-6. Skill Parts (Newspaper, Presentation, Report etc.) Course		Depend on the situation of each course				
5)-7. Course to Tie-up with the Business Course of the Cambodia-Japan Center						

Relations between CJCC and Support Program for Establishment of Department of Japanese in IFL, RUPP



Handwritten mark

Handwritten signature

Schedule of Dispatch Japanese Experts of Cambodia-Japan Cooperation Ceter (2003-2007) (Draft)

year month	2003			2004			2005			2006			2007											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
< Chief Advisor >																								
To make annual implementation plan for year 2004																								
To hold Steering Committee meeting																								
To review and decide annual implementation plan 2004																								
To prepare and conduct Exchange Program																								
To join inspection trip to Vietnam and Lao Center																								
To establish project implementation system																								
To establish project management system																								
To make annual implementation plan for year 2005																								
< Project Coordinator >																								
To make annual implementation plan for year 2004																								
To prepare and join inspection trip to Vietnam and Lao Center																								
To prepare and hold Steering Committee meeting																								
To prepare for Exchange Program																								
To assist Chief Advisor to establish project implementation system																								
To prepare and hold Steering Committee meeting																								
< Expert on HRD Course for Market Economy >																								
To conduct needs survey																								
To make implementation plan and to develop contents of course, curriculum, manual, etc.,																								
To prepare and conduct pilot courses																								
To prepare and conduct HRD course																								
< Expert on Japanese Language Course >																								
To conduct needs survey																								
To make implementation plan and develop contents of course, curriculum, manual, etc.,																								
To prepare Japanese Language course																								
To start Japanese Language course																								

11/11



